

### 会長あいさつ

山形県在宅保健活動者連絡協議会(いつわ会)  
会長 水上 由美子



新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染拡大により、私達の生活が様々な制約をうけるようになって2年が過ぎました。令和3年度のいつわ会事業も全体の研修会やブロック研修会を開催することができませんでした。そのような中で、昨年12月3日に十分な感染対策を行い、東北地方在宅保健師等会連絡会議を、7県の会員とはWebで交流し、県内の8名の役員とは、直接顔を合わせて話し合いをすることができました。今まで当たり前のことと思って研修会に参加していましたが、改めて集まれることの意義を感じています。

感染予防による活動自粛により、保健事業も大変な状況ですが、いつわ会員の中には、ワクチン予防接種業務に従事されている方や、保健所業務に支援されご活躍されておられる方も多くおられると伺っております。健康に留意され、支援活動を継続されますことを願っております。

さて、昨年12月厚労省は、2019年日本人の「健康寿命」が男性72.68歳、女性75.38歳で前回3年前より男女とも0.54~0.59歳伸びて過去最長と公表しました(山形県は男性0.04歳伸びて72.65歳、女性0.61歳伸びて75.67歳)。その要因として喫煙率の低下など生活習慣の改善や高齢者の社会参加が進んだことが影響しているのではないかとしています。また、新型コロナウイルス感染症の流行下において、健康格差が拡大しているという懸念もあり対策の検討が必要としています。

令和4年度のいつわ会は、以前と同じような研修会を実施できないかもしれませんが、工夫とアイデアで、情報交換や研修会を開催し、皆様と再会の喜びを分かち合いたいものです。国保連合会様には、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 令和3年度事業(中間報告)

令和4年2月現在

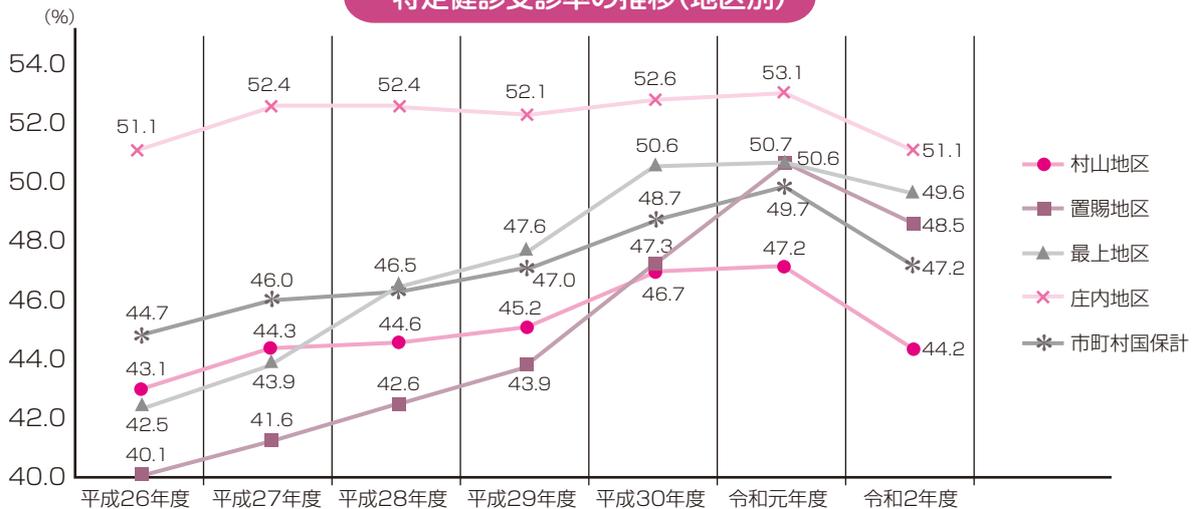
事業名	日時	内容
役員会	令和3年 4月30日 令和3年 12月24日	2回開催(書面協議)
いつわ会全体研修会	令和3年 9月	中止(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)
いつわ会ブロック研修会		中止(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)
特定保健指導従事者研修会	令和3年 11月12日	保険者協議会主催の研修会にWebで参加(13名) 詳細は本誌2頁参照
令和3年度東北地方在宅保健師等会連絡会議	令和3年 12月 3日	開催県:新潟県(Web会議) 山形県から8名参加 詳細は本誌4~5頁参照
会報発行(第37・38号)	令和3年 8月 令和4年 3月	コロナ禍の中の活動や近況 他 東北地方在宅保健師等会連絡会議報告 他
高齢者地域サロン等事業協力	令和3年 7月	健康講話・実技(延べ1名協力)
救護協力	令和3年 6月~ 令和4年 1月	運動・スポーツ大会の救護・応急処置 (延べ22名協力)
会員活動アンケート調査	令和4年 3月	

## 令和3年度特定健診・特定保健指導受診率等向上対策事業

平成24年度より国保連合会事業として、電話による受診勧奨について実施を希望する保険者から受託を開始。今年度は会としての受託は行っておりませんが、保険者と協力し、特定健診受診率を向上させるため、いつわ会会員が電話による受診勧奨を実施しました。健診を申し込まない理由で最も多いのは、「定期的に通院してみてもらっているから」であり、通院中で未受診の方への勧奨が今後の課題となっております。

平成30年度の山形県市町村国保の受診率は、48.7%(全国1位)、令和元年度は49.7%(全国1位)と向上しておりますが、令和2年度はコロナ禍の中多くの市町村で受診率が減少しました。今後も国の目標である60%に向け、引き続き取り組みが必要です。

特定健診受診率の推移(地区別)



## 特定保健指導従事者研修会への参加

研修機会が減少する中、会員活動アンケートから、市町村事業に協力している等の会員102名に保険者協議会主催の研修会(Web開催)を御案内し13名の会員が出席しました。内容は東北中央病院 消化器・肝臓内科部長渡辺久剛氏より「肝臓から見た健康維持～アルコールと肥満のリスクに着目した保健指導～」、山形済生病院健康増進センターめぐみ 課長代理遠藤美子氏より「効果を実感できる運動指導」と題して講演をいただき、全国健康保険協会山形支部小野寺壮氏からは「ICTを活用した保健指導」の事例報告をいただきました。

### 参加しての感想

疾患についてはまだまだ知らない事だらけで、今後も勉強が必要であると感じました。運動指導については、実行可能な運動を選択し指導することも指導者の力であるということに納得しました。

## 救護活動事業

これまで開催されていた運動・スポーツ大会がコロナ禍で中止となる中、感染防止対策を取りながら中体連や野球の東北大会、新たに水泳大会の救護活動を行いました。

### 実施しての感想

野球日和のもと、事故や怪我のないよう祈りながら試合を観戦しました。コロナ禍の中、声を出さずに手をたたいたりして応援しておりました。真剣なプレーに日頃のトレーニングの成果だと思いました。参加された方々の皆さんが精神的にも身体的にもよい時間だったのではないのでしょうか。対応者なく無事終了しました。

## 新型コロナウイルス感染症に係る保健所支援のための人材バンクについて

令和2年10月厚生労働省からの依頼を受け、いつわ会会員の皆様に人材バンクへの登録(IHEAT)をお願いしたところ、32名の会員の方より登録をいただきました。なお、この間保健所から支援要請があり保健所での活動や登録の有無にかかわらず市町村のワクチン接種に御協力も頂きました。引き続き保健所や市町村からの支援要請に御協力頂いております。

## 県内の動き紹介コーナー



### 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施推進

現在、急速な高齢化が進行している中、75歳以上人口の占める割合は更に増加し、健康寿命の延伸が重要な課題となっています。このような背景の中、高齢者の心身の特性に応じ、制度によって切れ目のない保健事業の支援が求められております。「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」が「高齢者の医療確保に関する法律」及び「介護保険法」の規定により令和2年4月1日に施行されました。後期高齢者医療広域連合が高齢者の保健事業を市町村に委託し、委託を受けた市町村が、国民健康保険の保健事業や介護保険の地域支援事業と一体的に実施を検討していくことになり、令和6年度まで全市町村での取り組みが求められております。令和3年度は3市町が実施し、令和4年度は12市町が実施予定になっております。

#### 先行事例紹介

● 金山町（人口5,197人 高齢化率37.2%） 令和3年度事業開始

すでに実施している事業を取り入れながら一体的実施の取り組みができるのでは…

事業内容	取組区分(太字が今年度実施)	詳細内容
ハイリスクアプローチ	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>低栄養</b></li><li>・口腔機能</li><li>・服薬</li><li>・重症化予防(糖尿病性腎症)</li><li>・重症化予防(その他生活習慣病等)</li><li>・<b>重複・頻回受診等</b></li><li>・<b>健康状態不明者対策</b></li><li>・その他</li></ul>	ハイリスクアプローチについては、これまでも広域連合からの委託を受けて実施してきた3つの訪問指導と町単独事業を一体的実施の取組として実施することとしている。 ただし今年度は、重症化予防(その他の生活習慣病等)の対象者が抽出されなかったため、「低栄養」及び「重複・頻回受診等」の実施となる。また、町単独事業では、健診及び医療機関受診歴がない健康状態不明者への取組を実施する。
ポピュレーションアプローチ	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>健康教育、健康相談</b></li><li>・<b>フレイル状態の把握</b></li><li>・気軽に相談が行える環境づくり</li></ul>	町の既存事業である「小さな拠点づくり事業」を活用し、フレイル予防に関連した健康相談(週1回)及びフレイル予防の健康教育(年1回)を実施する。また、3カ月に1回、身体計測及び体力測定を行い、後期高齢者の質問票も活用して、参加者のフレイル状態を把握する。

※令和3年度山形県市町村保健活動推進研修会資料より抜粋

### 糖尿病及び慢性腎臓病(CKD)重症化予防への取り組み



糖尿病や慢性腎臓病は重症化すると人工透析につながるおそれがあり、人工透析の導入は県民の生活の質に大きな影響を及ぼすこととなります。

そのため、平成28年度に山形県が作成した「山形県糖尿病及び慢性腎臓病(CKD)重症化予防プログラム」に基づき、保険者と医療機関が連携し、糖尿病及び慢性腎臓病の重症化するリスクの高い者に対し、適切な治療につなげられるための受診勧奨・保健指導等を行っています。

市町村では、令和2年度から効率的かつ効果的にハイリスクアプローチをするため、特定健康診査データを基に5年以内に人工透析に移行する可能性のある者に受診勧奨・保健指導を行い人工透析への移行を防止、遅らせるための取り組みも行っております。

米沢市では、透析導入予測時期が入った案内を対象者へ訪問で届け、かかりつけ医を受診するよう伝えております。かかりつけ医から必要時、専門医療機関に紹介いただき、安定したらかかりつけ医へ逆紹介となります。必要なケースは専門医療機関とカンファレンスを実施し連携して支援する仕組みになっています。このような仕組みが県内で広がっていくことが望まれています。

# 令和3年度 東北地方在宅保健師等会連絡会議

報告

と き／令和3年12月3日(金)

ところ／山形県国保会館

東北6県に新潟県を含めた7県の在宅保健師等会のための連絡会議が新潟県主催で開催(Web)され、91名の参加があり、うち山形県より8名の会員(役員)が参加いたしました。

## 会議内容

### 第一部

#### ● 講演 1

#### 「在宅保健師等会における活動について」

国民健康保険中央会

保健事業専門幹 三好 ゆかり 氏

#### ● 講演 2

#### 「島の保健室」立ち上げの経緯から 感染症流行下での活動状況

新潟県在宅保健師の会「燈々会」

佐渡支部幹事 土屋 貴子 氏

#### ● 報告

#### 「都道府県在宅保健師等会全国連絡会 について」

都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員

新潟県在宅保健師の会「燈々会」

会長 安達 ミチ 氏

### 第二部

#### ● 各県の発表(主な内容)

##### テーマ

#### 「コロナウイルス流行下での活動について」

- ・総会や研修会、役員会では中止とした県が多かった。
- ・コロナ特集号として保存版を作成し、会員に配布し活動に活用した。
- ・市町村、保健所支援、IHEATへの登録
- ・感染症対策をしながら各地区での介護予防等の活動を実施した。

#### ● 意見交換会(主な内容)

- ・会員募集や会員数を増やす手段として工夫していること。
- ・今後一体的実施を中心とした市町村支援を拡充していくにあたり、どのような方法や工夫が必要か。

講評・助言／国民健康保険中央会

保健事業専門幹 三好 ゆかり 氏



#### 【会議参加者】

前列左から 井上幹事 水上会長 鈴木副会長

後列左から 鈴木幹事 長南幹事 飯田幹事 今野幹事

白田常任幹事

## 報告

幹事 今野 さゆり(置賜地区)

令和3年12月3日(金)に「令和3年度 東北地方在宅保健師等会連絡会議」が、Webex Meetings 会議ツールを活用したリモート会議方式で行われた。

午前中第一部の講演1では、国民健康保険中央会 保健事業専門幹 三好ゆかり氏から「在宅保健師等会における活動について」の説明と、新潟県在宅保健師の会「燈々会」会長 安達ミチ氏から「都道府県在宅保健師等会全国連絡会について報告」があった。

三好氏からは①新型コロナウイルス感染症下における保健事業実施時の注意点及び、高齢者が日常生活で気を付けるポイント②在宅保健師等へ国や市町村が期待する役割について③保健事業を取り巻く国の動き④高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施についてと、4つに分けた説明内容だった。人生100年時代の到来と言われる中で、国が打ち出したデータヘルス改革の表を見ながら、私には何に関わる事が出来るだろうかと考えさせられた。

午前中第一部の講演2では、新潟県在宅保健師の会「燈々会」佐渡支部幹事 土屋貴子氏から『「島の保健室」立ち上げの経緯から感染症流行下での活動状況』のテーマで講演をいただいた。(・令和1年9月オープン・年末年始を除き毎週日曜日9:30~15:00・利用料金大人200円/夜間300円・飲み物とお菓子と居場所を提供・スタッフ=その日都合がつく佐渡支部メンバー)と活動実績に書いてあった。今後の課題もあるようでしたが、話の中ではスタッフの方も皆さんも無理なく参加されているようで驚いた。場所や料金やスタッフなど「島の保健室」と同じ事は出来ないかも知れないが、私もスタッフとして参加してみたいと思った。

昼食と休憩をはさんで午後第二部は「コロナウイルス流行下での活動について」のテーマで各県の在宅保健師等会の活動報告が行われた。その後意見交換会へと続くのですが活発に意見が交わされ時間が足りない位に感じた。

最後に三好氏から講評・助言があり、山形県いつわ会で毎年欠かさず行っている会員活動アンケート調査を褒めていただいた。大変有意義な一日を過ごさせていただきありがとうございました。

## 報 告

幹事 鈴木 京子(最上地区)

昨年12月3日開催の「東北地方在宅保健師等会連絡会議」への参加が最上地区幹事として初活動となりました。コロナ禍のためオンラインでの研修で県国保連合会に行くのも初めてでした。他県では保健師だけの県もあり、山形県では助産師・管理栄養士(栄養士)・歯科衛生士・看護師(准看護師)が協力して活動を行っており実に良いと感じました。

約20年間病院の看護師として勤務しましたが地域での活動が気になっていました。職から離れて妊活の結果も出ないまま年齢的に限界が来た時、戸沢村役場から仕事を頼まれました。村の医療費抑制のため多受診・頻回受診者の訪問指導でした。地域に入っただけの活動は長い間の夢で喜んで引き受けました。

役場に勤めて戸沢村は国保発祥の地であることを知りました。戸沢村角川地区(旧角川村)は豪雪の無医村、凶作で貧しかった。貧しさの中で「助け合いの精神」から始まりました。国保制度は先

人の努力があり、戸沢村は昭和13年認可第1号となりました。そのことを忘れず健康を保ち、いつわ会の会員としてできるだけ長く活動したいものです。また、コロナ禍が収まり自由に活動できる日が一日も早く来ることを願うばかりです。

## 報 告

幹事 長南 智美(最上地区)

コロナ禍でほとんどの事業が中止になる中、久しぶりに参加したのは「東北地方在宅保健師等連絡会議」という大きな会議でした。何もかもが新鮮に感じられ、わくわくした反面、責任の重さや何もできないでいる名ばかり役員の自分に歯がゆさを感じました。「コロナ禍だから仕方ない。」といった毎日に流され続けていた矢先の参加でしたから、各県の皆さんの活動報告は、私の心を開き、外へ目を向けるきっかけを作ってくださいました。職場を離れても保健師の心を持ち続けることの大切さ、専門職としての心の在り方を見直すことが出来ました。

職場を離れた今、保健師としての自分を見つめる機会も、見直す機会もなくなりました。だからこそ日々の生活の中で、流されることなく保健師の心を持ち続けることが大切なことであり、必要なことなのではないかと改めて気づかされました。



Web会議の様子

## 会員の状況

会員数 223名 (令和4年1月末日)

### 年齢構成 (平均年齢 68歳)

年齢階層別	人数
40歳未満	0
40～49歳	3
50～59歳	18
60～69歳	109
70～79歳	70
80歳以上	23
計	223

### 職種・地区別

	村山	最上	置賜	庄内	合計
保健師	38	14	15	23	90
助産師	9	1	0	4	14
看護師	14	9	10	31	64
准看護師	3	3	3	1	10
管理栄養士	8	4	6	4	22
栄養士	2	0	1	0	3
歯科衛生士	11	3	6	0	20
合計	85	34	41	63	223

### 新入会員 (令和3年入会)

	村山	置賜	庄内	合計
保健師	1	1	0	2
看護師	1	0	0	1
管理栄養士	0	0	1	1
合計	2	1	1	4

令和3年4名の方が新たに  
入会されました。  
皆様どうぞよろしくお願いいたします。

## お知らせ

### 市町村保健事業担当者の皆さんへ!

いつわ会では、健康・栄養相談、訪問指導、その他の保健事業に保健活動者を派遣しています。健康イベント等の際の健康相談、救護等に依頼してみませんか?

### 会員の皆様へ

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度に引き続きいつわ会の全体研修会及びブロック研修会は、残念ながら中止とさせていただきます。次年度の全体研修会及びブロック研修会開催については、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を踏まえながら検討してまいります。また、毎年ご案内しております、山形県国保地域医療学会は、令和4年9月開催の予定としております。

## 会員募集

入会費・会費無料

あなたも  
楽しく活動してみませんか?

今までの専門職としての経験を、自分の住んでいる地域の健康づくりに役立てましょう。お知り合いの方にぜひご紹介をお願いします。

申し込み、問い合わせは、事務局連絡先まで

### 事務局

〒991-0041  
山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地 国保会館内  
山形県国民健康保険団体連合会 事業課保健事業係  
TEL 0237-87-8002  
FAX 0237-83-3353

印刷 コロニー印刷